

# 猿新聞

編集・発行者  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email  
jyun.y@asint.jp

## 名張B群 動きが変だ！！

名張B群の遊動域が広がりがつあり、指南員情報によると、9月11日竜口付近で目視。鳥ヶ谷トンネル付近で受信と。動きが変で以後（9月末現在）行方が確認されていません。

「群れ分かれ」の原因に つながります。サルは、突然、撃たれるとパニックに陥り、四方八方に逃げ、いつもは行かない山に逃げ、恐怖心で元の群れに復帰できなかつたり、群れの中心のメスザルが撃たれることもあり、そうすると、群れの統率が取れなくなつて、「群れ分かれ」が起こります。分かれた群れは、元の群れには復帰できないことが多く、新しい土地で群れを組み縛りを獲得していきま。

縄文時代までさかのぼることが出来ます。日本列島に人が始めて現れたときには、すでに犬を伴っていたといわれています。縄文時代の人々は自然に密着した生活をしていて、狩猟にはすでに犬が重要な働きをしていたと考えられます。弥生時代以降は、農業が起こり農耕が生活の中心を占めていて、野生動物が田畑に侵入しないよう犬は番犬として、重要な働きをしてきたと思われま。

現在、犬はオオカミの亜種で、オオカミのもつ天性の攻撃性や俊敏性をすべて受け継ぎ、すべての野生動物を凌駕しています。犬の放し飼いを禁止されたのは、1953年（昭和28年）に狂犬病予防法が制定された頃だと記憶しています。飼いがすべて放し飼いの時代では、野生動物の里への侵入を犬達が防いでいたのです。現在では犬はペットとして家庭に閉じ込められ、共存・共生のバランスが崩壊してしまいました。そこで、人と犬がパートナーシップを結んで、野生動物を本来のすみか奥山に戻し、野生動物と新たな共存・共生を図るために導入されたのがモンキードッグです。

名張B群は、通年耕作地の周辺を離れずに遊動している群れですが、平成25年10月頃にも行方不明になり「群れ分かれ」と大騒ぎになりましたが、しばらくして元の群れに復帰したという経緯もあります。猿の交尾期は9月～1月頃です。同じ時期に、同じようなことが起こるといことは、交尾期との関係も考えられます。多くの場合、血縁集団を中心として「群れ分かれ」が起こりますが、名張B群は一昨年の個体調査ではやや減少状態であったので、個体の過密で行動域が変化したとは考えられません。散発的に群れから離れていったメスが中心になり、その回りにハナレザルのオスが集まって、新しい群れが形成される場合も考えられます。銃による有害駆除も

現在、野生動物は殆どが草食性の動物で、草食性動物達は、進化の長い歴史を通して、捕食者（オオカミ）から逃げるという本能的反応を身につけています。現在日本の自然界にはオオカミの絶滅以来、強力な捕食者は絶えてしまいました。そこで、犬に適切な訓練を施し、天敵の役割を担ってもらおうと考え出されたのがモンキードッグです。現在、宇陀・名張両市では30頭のモンキードッグが活躍しています。

現在、野生動物は殆どが草食性の動物で、草食性動物達は、進化の長い歴史を通して、捕食者（オオカミ）から逃げるという本能的反応を身につけています。現在日本の自然界にはオオカミの絶滅以来、強力な捕食者は絶えてしまいました。そこで、犬に適切な訓練を施し、天敵の役割を担ってもらおうと考え出されたのがモンキードッグです。現在、宇陀・名張両市では30頭のモンキードッグが活躍しています。

現在、野生動物は殆どが草食性の動物で、草食性動物達は、進化の長い歴史を通して、捕食者（オオカミ）から逃げるという本能的反応を身につけています。現在日本の自然界にはオオカミの絶滅以来、強力な捕食者は絶えてしまいました。そこで、犬に適切な訓練を施し、天敵の役割を担ってもらおうと考え出されたのがモンキードッグです。現在、宇陀・名張両市では30頭のモンキードッグが活躍しています。

## 集落ぐるみで取り組む ニホンザル等対策研修会

名張市農林資源室主催・研修会。集落ぐるみで取り組むニホンザル等対策。平成27年9月29日午後7時、名張市役所一階大会議室で開催されました。平日の午後7時という出にくい時間帯にも関わらず、各地区長始め多数出席され、獣害の深刻さがうかがえました。市民の多くが獣害対策の意識や知識を深めるために研修会は必要で、また、研修会を通じて多くの市民がその現状の深刻さを共有することができるとのことです。行政に一言。今後一人でも多くの人たちが参加できるように開催日時にも考慮をお願いします。

### 研修会風景

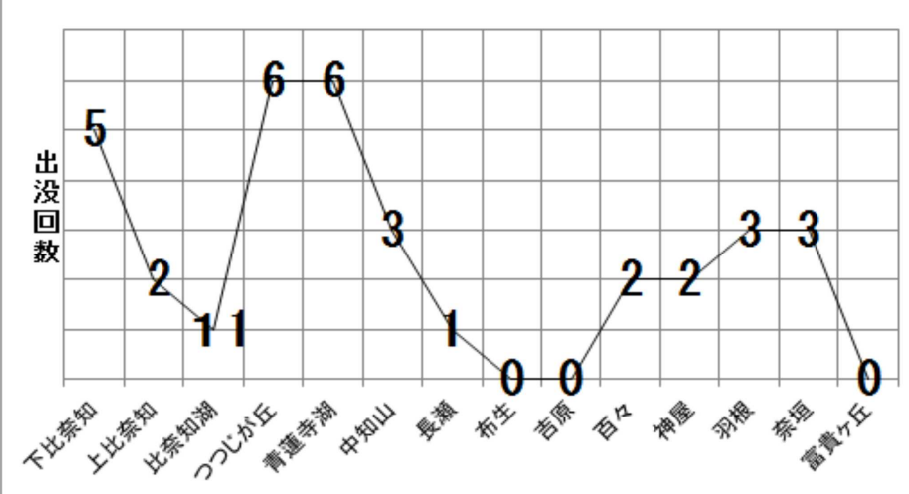
市役所大会議室にて

平成27年9月29日

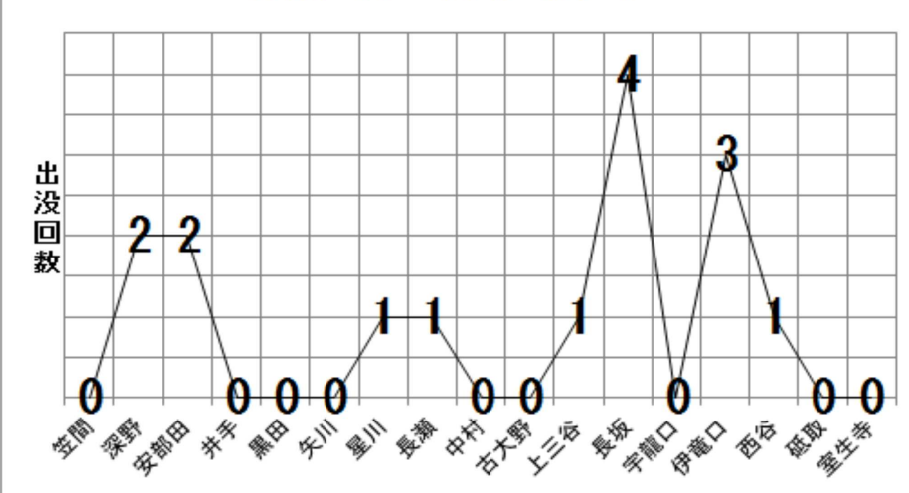


「三重県農業研究所地域連携研究課」講師 山端 直人氏。「三重県伊賀農林事務所伊賀地域農業改良普及センター」講師 市川 昌樹氏。講演主旨。知能が高く、単純な方法では追い払いが困難なニホンザルから、集落を守るには何を行うべきか。他地域での実施例について紹介。集落住民が連携した組織的な追い払いの紹介。効果的な多獣種防護柵などを動画で紹介。特に、遠隔操作ができる「まる三重ホカクン」の動画には、参加者は大きな関心を寄せ、質疑応答にも「まる三重ホカクン」の関連質問が多く飛びかきました。被害管理の重要性。加害獣に好まれる場所とは、安全にエサをとれてエサが豊富にあるところ。「エサ場」ともいう。☆エサ場には被害と思われないエサがある。☆正しく困えていない。☆正しく追い払いができていない。☆自分の農地だけ。個々バラバラ。何もしない人が多い。女性ばかりあきらめて「エサ場をなくす」「正しく追い払いの実施。同時に、「生息地管理」と「個体数管理」を実施することが重要。

### 名張A群10月移動グラフ



### 名張B群10月移動グラフ



### サルの出没状況 名張A・B群

10月の出没状況。A群は、遊動域のほぼ全域を遊動し、先月と同様。自然、栽培双方の果実を中心に採食しています。B群は、

研修会などに出席すると、内容がマンネリ化して新鮮さや獨創性がないという声も聞こえますが、知識や認識を一般に広めるためには繰り返し、繰り返し伝えることが大切です。決してマンネリ化ではなく、多くの人が理解するまで繰り返し伝えることは重要なことです。

### 最後の手段

矢川、一ノ井方面には群れでの出没は殆どなくなりましたが、矢川から鹿高にかけて2～3頭のハナレザルが居着いていて、ゲリラ的な被害を起こしています。こうしたハナレザルは人を脅したり、人家に侵入したりすることがあります。人家近くに頻繁に出没するよう

心に遊動し、自然、栽培双方の果実を中心に採食しています。今年初めての「ヌルデの虫こぶ」の採食を確認しました。★B群が先月、数日間行方不明でしたが、情報によると室生の下田口付近で数日間滞留していたとのこと。 ◆「ヌルデの虫こぶ」 ◆「うるし科ヌルデ属」一般的にはうるしと呼称